

学校評価 総括評価表の下位組織レベルの重点目標は、学校重点目標の実現に向け、当該年度に、特に重点的に取り組む目標です。

徳島県立ひのみね支援学校

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和 7 年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
中 学 部	【学校目標】 2) 学習指導の充実 【下位組織レベル】 ① 生徒の実態に応じて、物や 人との関わりを広げることが できる体験活動の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価	
		① 「総合的な学習の時間」等において、 様々な感覚等を活用できる体験活動を2 テーマ以上、地域の人材を講師とした出 前授業を2回以上行う。			(評定)	
					(所見)	
		② 個々の生徒に設定した「総合的な学習 の時間」における目標で「十分に達成で きた」「概ね達成できた」という評価が80 %以上となる。				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 個々の生徒の実態に応じ、聴覚、触 覚、嗅覚、味覚、視覚等の保有する感覚 を活用した体験学習を計画する。				
		①-2 他学部の友達や教員、地域の方等、 様々な人々と関わる機会を設ける。				
		②-1 「総合的な学習の時間」の目標や育 成を目指す資質・能力等の共通理解を図 り、個々の生徒の目標を設定する。				
②-2 生徒の姿を多面的に捉えるために、 学級担任等複数教員で、学習評価を行う。						

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和 7 年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		
高 <					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		
総 務 課	【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 ① 緊急時や災害時における組織体制の充実や避難態勢の整備を図る。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価
		① 教員の80%以上が、研修や訓練等を受けて「防災意識が高まった」とアンケートで回答する。		(評定)	
		② 参観日に実施する避難訓練に参加した保護者の80%以上が本校の避難態勢に「満足」「やや満足」と回答する。		(所見)	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 防災研修を2回以上、「災害安全」に関する訓練を5回、「生活安全」に関する訓練を1回計画し、11月までに実施する。			
		①-2 毎月の学校安全の日に防災計画等の一部や防災に関する情報、職員の個人備蓄の準備等の内容を掲示板にあげて啓発する。			
		①-3 外部から専門家を招き、発災時の避難に関する研修を実施する。			
		①-4 2回目の火災避難訓練を1週間程度の期間内に告知なしで実施する。			
		①-5 計画した研修や訓練(①-1)が終わった後に教員向けのアンケートを実施する。			
		②-1 6月の参観日に高潮風水害を想定した避難訓練と引渡し訓練を実施し、災害時の教員の動きや児童生徒の動きがわかりやすいように工夫する。			
②-2 保護者の意見を聴収するため、見学のポイントを記載したアンケートを訓練前に配布して実施する。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
教 務 課	【学校目標】 2) 学習指導の充実 【下位組織レベル】 ① 児童生徒の実態に応じた教科指導等の授業づくりについて思考を深める。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価	
		① 教育課程研究集会の内容を元に行う各学部での伝達講習とワークに、80%以上の教員が参加する。		(評定)		
				(所見)		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 教育課程研究集会に参加し、重点事項や新しい知見を確認する。				
		①-2 教育課程研究集会伝達研修(校内)を各学部ごとに行い、重点事項や新しい知見を学校全体で共有する。その際、本校(学部)の実態を踏まえたワークを取り入れる。				
		①-3 研修後にアンケートを実施する。				
		①-4 アンケートで挙げた質問についてまとめたのち、希望研修を企画し、参加者が一緒に熟考したり協議したりする中で学びを深める。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
研 究 課	【学校目標】 4) 教職員の専門性及び授業力 向上と働き方改革 【下位組織レベル】 ① 個別の指導計画（自立活動） を基軸とした自立活動の指導 の充実を推進する。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価	
		① リフレクションミーティングを行うこ とで指導すべきことが明確になったり、 情報共有できたりしたことにより、自立 活動の指導が充実したと全教員の80%以 上が回答する。 ※リフレクションミーティング ビフォー会にて指導上の共通理解や 検討事項について話し合い、その指導 結果をアフター会にて確認したり検討 したりする授業改善に向けての話し合 い。			(評定)	
					(所見)	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 リフレクションミーティンを進めに くいグループがあれば、研究課がそのグ ループに対して2回以上相談に乗る等の サポートをする。				
		①-2 個別の指導計画（自立活動）の作成 に関する研修会を企画し運営する。				
①-3 全教員に自立活動に関する資料を5 つ以上、データまたは紙媒体で配付する。						
①-4 リフレクションミーティンで取り組 んだ自立活動の指導を共有するために、 年度末に報告会を開く。						

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		
人 権 進 路 課	【学校目標】 3) 家庭・地域・学校が一体で 取り組む教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	総 合 評 価	
		① 人権教育やキャリア教育についての理解が深まったかのアンケートを生徒、保護者、教員それぞれに応じた内容で行い、80%以上の肯定的な回答を得る。		(評定)	
				(所見)	
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①-1 高等部において、外部講師によるキャリア教育や、スクールカウンセラーによるこころの学習などによる授業を学期に1回行う。				
	①-2 「みんなでいじめ問題を考える日」として、児童生徒全員がいじめの理解・啓発活動に取り組む機会を設け、活動した内容をまとめ掲示をする。				
	①-3 保護者対象に人権研修や進路に関する研修、教員対象に人権研修やいじめ防止研修、進路に関する研修を行う。				
	①-4 キャリア教育支援プログラムの活用方法についての説明を職員会議等で行い、授業を行う際の視点として持つことができるようにする。				
	①-5 校内実習や就業体験の振り返りを他学部の教員や児童生徒が見学できるようにし、卒業後を見据えた視点を持つことができるようにする。				
①-6 外部講師による授業や研修の様子をホームページや人権進路通信「花みずき」に掲載し、校内の取組を発信する。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
特 別 活 動 課	【学校目標】 3) 家庭・地域・学校が一体で 取り組む教育の推進 【下位組織レベル】 ① 体育祭・文化祭での体験的 な活動の充実や作品展「ひの みねからの発信」の充実を図 る。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価	
		① レクリエーション大会とした体育祭と 文化祭の鑑賞活動において、教職員と保 護者アンケートを実施し、肯定的な回答 を 80%以上得る。			(評定)	
					(所見)	
		② 「ひのみねからの発信」の作品展示で、 得られるアンケート数が、昨年度より 30 %以上増える。				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 体育祭では、子どもが充実感を得ら れるような、集団種目と個人種目を設定 し、体験的で活動的な種目を実施する。				
		①-2 文化祭では、校内に展示した全ての 作品を鑑賞できるような、ゲーム形式の 鑑賞活動を実施する。				
		②-1 アンケートの回収率を上げられるよ う、やまなみ珈琲店の各テーブル席に紙 媒体のアンケートと、2次元コードのア ンケートを設置する。				
②-2 アンケート結果を受けて、活動の改 善に繋がったり、児童生徒の意欲につなげ られるようにする。						

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
支 援 課	【学校目標】 4) 教職員の専門性及び授業力 向上と働き方改革 【下位組織レベル】 ① 校内外においてPBS(ポジ ティブ行動支援)を広げる取組を 行う。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価	
		① 校内外の教員にアンケートを実施して、 「PBS(ポジティブ行動支援)について理解 を深めることができた」と 80%以上から回 答を得る。		(評定)		
				(所見)		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 「ひのみねPBSの日」を設ける。校内に は掲示板で、校外には学校ホームペー ジにて身近な一例を挙げたり、PBSを進める ポイントを伝えたりして情報提供する。				
		①-2 児童生徒の気になる行動について、 「ちょこっとPBSゆるりとーく」を行い、チ ームでかかわりを分析する。				
		①-3 巡回相談先でPBSについての研修を 3 回以上行う。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見		
保 健 環 境 課	【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 ① 学校生活における安心・安全な指導の継続と徹底を図る。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価		
		① 個人情報に気をつけながら、より迅速でより確実に緊急対応や医療的ケアができるよう実施体制を整える。			(評定)		
					(所見)		
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 教員が個人カードを年度初めに作成し、主治医指示書と共にジッパー袋に入れて児童生徒が携帯できるよう環境を整える。					
		①-2 個々の緊急対応マニュアルやアクションカード等の作成を呼びかけるとともに、緊急対応訓練を年に2回実施し、学校全体で緊急対応体制について協議し見直す。					
①-3 緊急対応を行った際には、振り返りの機会を必ず設け、学校全体へ情報を共有し、安全面への配慮について再確認を行う。							
		①-4 児童生徒の健康状態や安心・安全な環境等に課題が出てきた際には、学校看護師、養護教諭と連携・協働し、研修の機会を設ける。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
情 報 課	【学校目標】 2) 学習指導の充実 【下位組織レベル】 ① ICT 活用に向けて教職員の理解を深め、児童生徒の実態に応じた活用を推進する。	評価指標	評価指標の達成度		総 合 評 価	
		① 児童生徒がどのように ICT を活用すれば効果的か等の提案を行ったり、教員のニーズに応じた研修を行ったりするなどし、ICT に関するアンケートにおいて 80 %以上の肯定的な回答を得る。		(評定)		
				(所見)		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 教員がどのように ICT を活用しているか活用事例一覧を作成し、情報提供することで、教員の ICT スキルの向上を図る。				
		①-2 年2回、教員対象に ICT を活用する際の困りごと等についてアンケートを行い、ニーズに応じた研修を行う。				
		①-3 アクセシビリティの設定など、タブレット端末を児童生徒の実態に応じた設定に調整する方法を教員に伝え、より効果的にタブレット端末を活用できるようにする。				
		①-4 ICT 活用の事例として、MicosoftTeams による事務連絡の情報共有のモデルを示す。				
		①-5 ホームページや校内掲示板で ICT の活用事例を発信し、校内だけでなく家庭や児童生徒が利用している施設等にも情報提供し、学校の取組を校外でも取り組んでもらえるようにする。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった